

10. 心筋梗塞症の心筋シンチグラム (第8報)

—^{99m}Tc-PYP 陽性例の臨床的分析—

作山 欽治	河合 喜孝
古出 隆士	野村 吉彦
安富 栄生	三谷 頼永
大柳 光正	山本 忠生
斉藤 良夫	岩崎 忠昭
依藤 進	

(兵庫医大・1内)

福地 稔

(同・RI)

急性心筋梗塞症患者に ^{99m}Tc-PYP 心筋シンチグラフィーを行い、臨床的考察を行った。対象は臨床症状、酵素変動、心電図所見から診断された急性心筋梗塞症53例で、その内訳は前壁中隔梗塞31例、下壁梗塞20例、側壁梗塞2例、平均年齢60歳である。これらに^{99m}Tc-PYPを平均12 mCi投与し、Picker社製 Dyna Camera 3C を使用し、投与6時間後に3方向から撮像し、心筋部に集積のないものを陰性、心部に不明瞭に若干集積のあるものを疑陽性、心筋部に明確にどの撮影方向からも限定できる集積のあるものを陽性とした。これら陽性例、陰性例について臨床像を検討した。結果：発症1カ月以内のシンチでは53例中27例(51%)に陽性所見を得た。発症後13日以内のシンチでは35例中27例(77%)に陽性所見を得た。発症13日以内に陰性であった8例では、GOT 平均138 ku, LDH 平均877 u, HBD 平均399 uであり、胸部レ線で肺門陰影の増強、葉間胸水等の所見のある肺うっ血像陽性例は25%、ジギタリス使用例は13%、利尿剤使用例0であった。他方、発症14日以後も陽性であった5例では、GOT 平均394 ku, LDH 平均2338 u, HBD 平均966 uと前者に比し有意に高値を示し、肺うっ血像陽性例は60%、ジギタリス使用例は60%、利尿剤使用例は20%であった。まとめ：酵素変動が高値の症例は発症14日以後も陽性像を示し、肺うっ血像、ジギタリス使用、利尿剤使用のない症例は発症13日以内に陰性像を示す傾向であった。

11. 上腹部に Tl-201 の異常集積を認めた1例

筆本 由幸	吉野 孝司
広部 一彦	小林 亨
藤本 淳	

(大阪府立成人病センター・循)

長谷川義尚 中野 俊一

井深啓次郎 塩村 和夫

(同・アイソトープ)

Tl-201による心筋イメージングの有用性については、すでに多くの検討がなされ、われわれも左心室造影所見との関連について報告してきた。140例以上の虚血性心疾患に心筋イメージングを行っているが、狭心症の1例に上腹部に異常集積を認めたので報告した。

症例は54歳男子で、労作狭心症を有し、冠動脈造影では左前下行枝の完全閉塞と、回旋枝、右冠動脈に50~75%狭窄が認められ、左室造影では、前側壁より心尖部にかけ収縮低下があった。これらの所見は心筋イメージと一致していた。しかし、左心室のイメージの下方に正面で円型、第2斜位と側面では垂鈴型の心筋とほぼ一致する異常集積を認めた。この異常集積の同定のため、胃腸透視、胃カメラ、パイオプシー、腹部単純撮影、断層撮影、さらにGa-腫瘍シンチスキャン等を施行した。腹部動脈造影なども併用したが、悪性腫瘍の所見は得られず、肥厚した胃壁を有する牛角形の胃であることが判明した。

すでに報告された Tl-201 の初期分布より、消化管への% Dose は心の約8倍あるので、肥厚した胃壁にも可成りの集積が見込まれる。また、牛角形胃の位置的関係やスキャンの方向なども、この様なシンチグラムを呈した一因と考えている。